災害時、女性の身体の健康を守るために

11 月 30 日、中曽根小学校区まちづくり協議会のみなさんが吉川美南駅西口公園で開催した「防災まつり 2025」にお邪魔しました。会場では、元宮城学院女子大学家族社会学教授の浅野富美枝先生のミニ講演「災害時、女性の身体の健康をまもるために」が開催されました。

女性の身体的特徴と下半身の病気

女性の身体は男性と比べても尿道が短い、尿道・膣・肛門が近いため外部からの細菌が入りやすいなどの特徴があります。そのため膀胱炎・尿道炎・膣炎などの感染症や、デリケートゾーンの皮膚炎などを起こしやすいのが特徴です。

災害時には入浴や洗濯が困難となり、外陰部の清潔を保ちにくくなります。またトイレが遠いとか不衛生であるとか、暗く人目に付きにくい場所に設置されている場合は治安上の不安があるなどの問題によりトイレを我慢しがちになります。またトイレの回数を減らすために水分摂取量を減らし、それがまた膀胱炎のリスクを高めてしまいます。

おりものシートを災害用備品に！

下着の汚れを軽減する「おりものシート」の活用が、災害時の女性の健康を守るためにとても重要だというのが浅野先生のお話しでした。

おりものシートを生理用ナプキンの薄型版とか簡易版のように思う人も多いかもしれません。しかし生理用ナプキンとおりものシートは全く違うものです。生理用ナプキンは経血を吸収するため、吸収性と防湿性に優れています。それに対しおりものシートは通気性が重視された、日常的な分泌物をキャッチするものです。避難所の困難な状況の中でも「おりものシート」を使ってそれを交換するだけで、それなりの清潔保持が可能です。

市町村の災害用備品に！

生理用ナプキンは全国 88.9%の市町村で災害備品として常備されていいるそうですが、「おりものシート」については備蓄している市町村はわずか 9.5%です。吉川市でも備蓄していません。

今後、備蓄を求めていこうと思っています。

きよみの暮らし

猫のミーちゃんは間もなく 18 歳になります。老人保健施設みぬまの玄関に捨てられていた赤ちゃん猫をパートナーが家に連れて帰って来てから 18 年です。その時はまだほんの赤ちゃんで、ミルクを飲ませた記憶があります◆当時飼っていた犬のルフィは大興奮して悦び、いつもミーちゃんを追いかけまわして楽しそうにあそんでいました。ミーちゃんはとっても自由で、ドアノブを開けて部屋を出入りします。犬と遊びたい時やまったりしたい時はリビングに入り、ひとりになりたいときは家の中のどこかで息をひそめています◆もう 12 年も前の話になりますが、ルフィが死んだ時にミーちゃんは「どうしたの？」「今日は遊ばないの？」とでもいうように、ルフィの亡骸にいつまでも触れ続けていました。とても印象的な場面でした◆極度に憶病です。知らない人が来ると、必ずどこかに隠れてしまいます。掃除機やドライヤーなど、電気の振動音が代の苦手です。獣医さんやシャンプーに行くためにケージを用意し始めると、これまたどこかに隠れてしまいます。ペットショップでケージを開けてみると、爪が 2 本ほど剥がれていて、血まみれになっていてとても驚きました。それほど外に出るのが嫌だったのだと知りました◆獣医さんに「もう十分長生きだ」と言われましたが、最近めっきり年を取りました。ドアノブが開けられなくなり、部屋に入りたい時は鳴いて私たちを呼びます。ジャンプ力が無くなり、ジャンプに失敗することが多くなりました。若いころには 6.5kg あったのに、今では 3kg しかありません。ミーちゃん、もっともっと長生きしてねと願うばかりのこの頃です。

雪田きよみ

つわぶき便り

日本共産党吉川市議会議員
雪田　きよみ
住所：吉川市きよみ野 3 丁目
電話：090-5802-2516
e-mail:kiyomi.snow@mbr.nifty.com
URL:kiyomiyukita.com

越谷市立病院の医療・経営状は？

昨年 11 月 29 日、越谷社会保障推進協議会主催の学習会、「越谷市立病院はどうなっているのか～医療・経営状況と今後の展望」に参加しました。越谷市立病院事務部長　早山裕之さんがお話ししてくださいました。

越谷市立病院は吉川市政とは直接には関係しませんが、同病院を受診する吉川市民派多いと思います。とても気になるテーマです。

「この病院は避けなさい」第 49 位!?

昨年 7 月 21 日号『週刊現代』に「赤字が続けば、医療事故が増える～この病院は避けなさい」という記事が掲載され、全国の経営状態の悪い病院リスト 100 が「選出」されました。

越谷市立病院は第 49 位に掲載され、川口市立医療センターは 40 位、さいたま市立病院や県立がんセンターなどが名を連ねています。

全国自治体病院の 86%が赤字経営

全国自治体病院協議会は、2024 年度決算で各地の病院の 86%の経常損益が赤字だったと発表しました。協議会の望月泉会長は「地域の医療崩壊につながる緊急事態。危機を国民全体と共有してほしい」と話しています。

越谷市立病院の赤字は約 12 億円。さいたま市立病院は約 41 億円。草加市立病院は約 11 億円。春日部市立病院は約 8 億円。こうした状況は全国でほぼ共通しているとのことです。

なぜ赤字なのか？

この数年その診療報酬が上がっていません。一方で物価も人件費も高騰しています。特に公立病院は人事院勧告に従って人件費の引き上げが求められます。上げないわけにはいきません。消費税が 10%へと引き上げられ、医療機器購入などにも負担が増えていることも深刻な影響を与えています。

全国自治体病院開設者協議会・日本病院会など様々な医療関連団体や自治体病院を持つ首長などが診療報酬の引き上げや、制度的・財政支援などを求めています。

自治体病院の存在意義とは？

民間病院は経営上、どうしても採算を重視せざるをえません。一方、自治体病院は赤字でも必要な医療を提供する使命を持っています。

重症度の高い救急医療やハイリスクのお産、小児医療・災害医療・感染症医療・精神科救急・へき地医療などは収益性が低く、民間だけでは維持できません。自治体病院は絶対に必要です。

医療の安定供給・診療報酬改定を求める意見書、賛成多数で可決

12 月議会に私は「医療の安定供給と診療報酬の改定を求める意見書」提出しました。SELECT よしかわの 5 名の議員が反対しましたが、賛成多数で可決したことはとても嬉しいことでした。

来年度予算では診療報酬 3%程度の増額が見込まれています。しかしそれだけでは経営状況の立て直しは困難とも報道されています。国民負担増に配慮しつつ診療報酬を適切に改善し、医療の安定供給に努めるよう強く望む意見書です。私たちのいのちと健康の大問題だと思います。

中川の郷療育センターの経営を守れ！

昨年 10 月、県東南部 5 市 1 町（草加市・越谷市・三郷市・八潮市・吉川市・松伏町）の有志の議員のみなさんと中川の郷療育センターを訪問し、前院長の許斐（許斐）先生にお話を伺いました（写真）。

中川の郷の様々な機能

「中川の郷療育センター」は吉川市と松伏町の境に位置しています。1995 年 5 市 1 町で社会福祉法人東埼玉を設立し、97 年に重症心身障害児施設としてスタート。98 年には外来（小児科・リハビリ科・精神科・内科）と短期入所（ショートステイ）がスタートしました。2014 年にはリハビリテーション棟が、令和 2 年には在宅支援棟が竣工しました。

現在入所施設には、医療型障害児入所施設・療養介護 2 病棟と在宅支援棟に合計 77 ベッドがあり、昨年 9 月 1 日現在 72 名の重症心身障害児者が入所しています。ショートステーは 5 ベッドあり、月～木曜日に利用を受け入れています。

県の委託を受け、「中核発達支援センター」として、発達障害のある子どもやその家族への専門的な療育・相談支援、地域の保育園・幼稚園・学校など関係機関と連携して地域全体の発達障害児支援体制の中核を担っています。

通常多くの医療機関が 18 歳までは小児科、それ以降は大人の診療科で診察をしています。しかし先天異常などの障害は、大人の神経内科疾患などとは本質的に違います。中川の郷では 18 歳以降も児者一貫でずっと同じ主治医が診察しています。

医療依存度の重症化

中川の郷を受診する在宅重症児の医療依存度は年々高くなっています（下図参照）。

中川の郷療育センターに受診されている
在宅重症児者の医療行為の変移

	2011年7月	2016年11月	2022年4月
超重症	10名	14名	25名
準超重症	45名	53名	59名
人工呼吸器	8名	14名	24名
気管切開	27名	34名	45名
経管栄養（経鼻、胃瘻）	66名	85名	109名
合計	113名	103名	261名

私もかつての訪問看護の経験の中で、以前なら 1 歳を迎えるのも困難だった障害を抱えた方々が今では学齢期を迎えるような時代になっていることを実感し、その方々とご家族を支えるのが中川の郷だと実感しています。

2024 年より急速に財務状況が悪化

中川の郷の経営が急速に悪化しています。その原因は前述の公立病院の経営悪化と同様に、①診療報酬が上がらない、②物価高騰、③人件費高騰が挙げられます。埼玉県からは年間わずか 300 万円の補助しかなく、老朽化した施設の改修なども困難な状況に追い込まれています。それでも、重症心身障害児者を支える中川の郷は吉川市にとっても非常に大切な施設だと思います。

支援充実を求める意見書が否決!?

12 月議会に岩田京子議員が「中川の郷療育センターに対する支援拡充を求める意見書」を提出しました。賛成したのは共産党と平和市民クラブ、自民党と無所属議員 1 名の計 9 名で、反対多数で否決されてしまいました。　質問の中で、同様の事業所が同様の問題に直面する中で、中川の郷にフューチャーされ過ぎているとの発言がありましたが、私たちは中川の郷存続に力を注ぐべきだと思っています。

三面記事の由来と「平民新聞」の誕生

昨年 10 月 7 日に開催された 9 条の会@よしかわの学習会では、社会人講談師の甲斐淳二さんをお招きして、講談「三面記事の由来と平民新聞の誕生」をお話しいただきました。とても面白いお話でした。

黒岩涙香という人

1892（明治 25）年、「万（萬）朝報」を創刊した黒岩涙香は、『レ・ミゼラブル』を『ああ無情』として日本で最初に翻訳した人です。「万朝報」に連載し、書籍化されたのだそうです。

黒岩涙香は高知県出身で自由民権運動の影響も多分に受け、曲がったことが大嫌いな人でした。1889（明治 22）年、「開拓使官有物払下げ事件」（今で言うなら森友のような大事件）が起きた時、「驕る兵士久しからずや。驕る薩長久しからずや」という句を新聞に投稿し、大喝采を浴びました。そして言論抑圧を受け、横浜の戸部監獄に 16 日間投獄されました。

大人気を博した万（萬＝よろず）朝報

出獄した黒岩涙香は「批判するのは言論の役割」と考えて新聞社を立ち上げ、「万（萬）朝報」が誕生させました。万朝報のモットーは「簡単」「明瞭」「痛快」で、漢字にはふりがなを振り、誰にでも読めるようにしました。

１～２面はニュース、４面は相撲や将棋など、３面はプライバシー概念ゼロのゴシップ記事。特集「妾を囲う男たち」では、国家の元老・侯爵・伯爵・男爵・足尾銅山加害企業社長など、510 人の男性の妾の住所やら似顔絵やら入りで書き込み、時の権力者の腐敗を暴露し、また女性の地位向上を目指していたとのこと。この時定着した「３面記事」という言葉が今も残り、使われているとのことでした。

反戦から開戦論へ

1903（明治 36）年、朝鮮半島と満州の権益を巡りロシアとの対立が深まる中、他社は日露戦争の開戦を求める記事を書くようになっていきましたが、万朝報はロシアとの戦争は植民地争奪戦であり、犠牲になるのは貧しい労働者と農民だと主張しました。祖国防衛戦争ではなく朝鮮を奪うための戦争であり、そのような帝国主義的な戦争は朝鮮半島を手中に収めたら次は満州へ。そして次は中国、次はアジア諸国へと広がっていく破綻への道だと主張しました。

万朝報の転向、平民新聞誕生へ

開戦論が大きくなり、開戦に反対する新聞も減り、万朝報も発行部数が次第に減っていく中、黒岩涙香は開戦論へと方針を転換していきました。そして堺利彦と幸徳秋水は万朝報を退社し、新しい新聞「平民新聞」を立ち上げました。1903 年（明治 36）年、自由・平等・博愛・反戦を掲げて発行を始めた平民新聞は、たちどころに 5,000 部が売り切れ、すぐに 3,000 部を増刷するという人気ぶりでした。

明治のジャーナリストの大奮闘

1904（明治 37）年日露戦争が勃発すると、「ペンと紙がある限り、我々は反戦平和を絶叫す」と書き、戦争のための増税には「嗚呼、増税」という大見出しの記事を書きました。教育問題にも言及し、「忠君愛国はおかしい。自分の国と同じように、敵の国を愛するべき」だと説きました。

幸徳秋水や堺利彦は何度も新聞条例違反で拘束され、印刷機まで差し押さえられて廃刊へと追い込まれました。しかし二人は「新しい麦が育つ」と信じ、何度も名前を変えながら 6 年半にわたり奮闘を続けました。それはやられてもやられてもまた立ち上がる、明治のジャーナリストの姿でした。そのとき二人が握りしめていたバトンが、今私たちの手の中にあるのかもしれない・・・。

そんなお話でした。